

愛媛県総合科学博物館 企画展「来島海峡と潮流信号所」

開催期間：2024年2月17日（土）～2024年4月7日（日）



【企画展の内容・目的】

- 日本初の国立公園である瀬戸内海国立公園の指定 90 周年を記念して、瀬戸内海の魅力と重要性を指定日（3月16日）に合わせて紹介する。
- 古くから海の難所として恐れられてきた来島海峡海域の自然環境を展示で理解する。
- 明治以降の来島海峡海域に設置された灯台や潮流信号所など、海峡の安全の変遷を実物資料等で理解する。
- 1日約450隻もの船が行き交う瀬戸内海海上交通の要衝の一つとなった来島海峡の海運の重要性を映像や写真、模型で理解する。
- 令和5年4月の博物館法改正による、「他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域活力の向上への寄与を努力義務化」を踏まえて愛媛県立の博物館2施設（歴史文化博物館、美術館）と連携し、歴史、芸術、自然、産業の多様な角度から瀬戸内海を通して海の魅力と理解を深める機会を提供する。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2024年2月17日（土）～2024年4月7日（日）

■開催場所：愛媛県総合科学博物館企画展示室

■入場者数： 13,383人



愛媛県総合科学博物館外観



企画展会場 入口



「来島海峡について」「海峡の安全をまもる」「来島海峡を通る船舶」「来島海峡周辺の産業」4つのコーナーを来島海峡関連する自然・安全・船舶・産業について学ぶ機会を提供した。「来島海峡について」では、来島海峡の日中の潮流変化や霧などを解説パネルやタイムラプス映像で紹介し、古くから海上交通の難所とされる海峡の自然現象への学びを深める機会を提供した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「海峡の安全を守る」では、世界で唯一の潮流の流向によって航路が変わる来島海峡「順中逆西」の航行ルールについて、映像付きジオラマで分かりやすく展示した。来島海峡の安全を守るための施設や水先人の業務や潮流信号所の情報提供方式の変遷の解説のほか、かつて活躍した中渡島潮流信号所をジオラマで再現展示し、海上交通の安全を守る業務や施設についての学ぶ機会とした。



「来島海峡を通る船舶」では、1日約450隻もの船が行き交う来島海峡を通る船を紹介し、人を乗せるフェリーやクルーズ船、様々な貨物を運ぶ貨物船や海上の安全を守る巡視艇など、多種多様な船舶がいることを知る機会を提供した。



来島海峡周辺に立地している造船業や海峡の漁業について解説や映像展示を行った。造船業が海峡周辺の自然環境や周辺産業の要因により造船業が集積したこと、海峡の自然環境に合わせた漁業が行われていること、実際の操業の様子について学ぶ機会を提供した。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）
海を大切にしていきたいなと感じました。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
順中逆西の説明でジオラマと映像を使っていたのでとても分かりやすかった。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
船は重たい物も積んで遠いところまで運んですごいなと思いました。
- 回答内容D（海の学び以外のものなど）
海上保安庁（JAPAN COASTGUARD）のすべての職務が知りたくなりました。

2. 関連事業の内容

■海の学び講座 野間仁根の来島海峡と瀬戸内海

【開催日時】2024年3月17日（日） 14:00～15:00

【開催場所】愛媛県総合科学博物館第1研修室・企画展示室

【参加者数】11人

【実施内容・目的】

- 愛媛県美術館学芸員を講師に迎え、故郷の来島海峡付近の海を鮮やかな色彩と自由闊達な筆致で表現した愛媛を代表する洋画家である野間仁根について取り上げ、来島海峡に関連する作品について野間の観察眼から紐解きながらその魅力を知る機会を提供する。
- 来島海峡や瀬戸内海について、自然や産業分野だけではなく、美術や歴史の視点からもとらえることで、更に海への関心を高めることができる。



会場の研修室



講師の学芸員による講義



瀬戸内海国立公園指定90周年に関連して、瀬戸内海の美しさを内外に発信した美術作品を紹介したほか、東予出身の洋画家、野間仁根が昭和42年に描いた作品《来島水道仲渡島附近》等の瀬戸内海を描いた作品画像を見ながら、本作に表現された来島海峡の潮流の荒々しさや、世界的にも珍しい中水道の航行ルールである「順中逆西」を的確にとらえた大胆な作風について紹介した。絵画に描画内容について科学博物館の学芸員と意見を交わす場面もあった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



参加者とともに企画展示室に移動し、展示を担当した学芸員による野間仁根が描いた《来島水道仲渡島附近》に描かれた来島海峡の航行ルールや海峡の潮流などについて展示解説を行った。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）
海は人の営みを感じられるところ
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
身近な瀬戸内海について、これまで知らなかった事が知れました。とても興味深く拝見しました。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
一人の話だけでなく、2人の専門の学芸員のやりとりが良かった

■海の学び講座 ビーチコーミング観察会＋ワークショップ

【開催日時】2024年2月24日（土）13:00～16:00

【開催場所】伊予市 扶桑会館、大谷海岸

【参加者数】22人

【実施内容・目的】

- 伊予市大谷海岸の砂浜を歩きながら、漂着している海洋生物の遺骸や人工物などを観察する。漂着物を観察することで、瀬戸内海特有の海の流れについて知る。生物遺骸からは海の環境、人工物からは海の環境問題について学ぶ。また、漂着物を利用した工作を行い、漂着物の楽しみ方を紹介する。



漂着物の観察と解説



漂着物の観察と解説



漂着物を使った工作体験



漂着物を使った工作体験

伊予市の大谷海岸において、流木や岩石、貝などの動物の殻、漁具などのプラスチック類など様々な漂着物を観察し、地域の自然や海洋環境について理解を深めた。収集した漂着物を用いて、参加者が自由に工作をする創作体験を行った。アンケートにも「遠目にゴミに見えるもののなかから宝物を見つけることができた」などあり、海洋ゴミについての知識や再利用について理解を深める機会となった。

【来館者の声】

○回答内容A（海の学びに繋がるもの）

海にはいろんなところからゴミが来ていることがわかった

○回答内容B（海の学びに繋がるもの）

海岸にはいろんなゴミがあることも再度学ぶことができました。ゴミを拾って片付ける事も大切ですが、ゴミを拾って楽しむことも大切だと分かりました。

○回答内容C（海の学びに繋がるもの）

砂浜のごみは、遠くから見ると汚く見えるけれど、よく観察すると自分がいいなと感じる物があり、宝の山に変わったように感じた。海に親しみを持って過ごしたいと感じた。

■海の学び講座「海の管制官」体験

【開催日時】2024年3月2日（土）9：20～16：00

【開催場所】愛媛県総合科学博物館 第1研修室

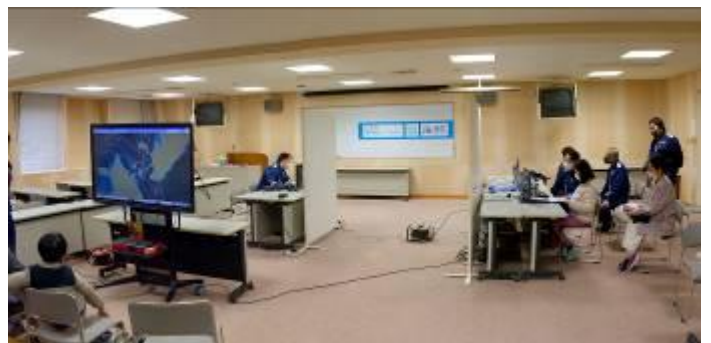
【参加者数】42人

【実施内容・目的】

- 来島海峡海上交通センターと連携し、センター管制官業務研修のシミュレーション機器を用いて、実際の海上交通センター管制官業務を体験する。来島海峡の海上交通の安全を守るセンター業務への理解を深めるほか、海事関連方面への進路決定の一助とする。



開催場所



実施会場



空から見た来島海峡航路の説明



来島海峡航路の特徴の説明

管制官体験を行う前に、センター職員により 来島海峡の自然環境、潮流の向きで航路が変わる通航ルールがあり、多く船舶の通過が集中するため夜間は、特に転流時の航路の切り替えが難しいことなどの説明があった。来島海峡海上交通センターの設置後、事故件数が大幅に減少しており、センターが海峡の安全に貢献していることについて理解を深める機会となった。



海上交通管制官の訓練に使用する機器類を使用し、海峡を航行する船の中から乗揚げ等の危険が予想される動きをする船舶を見つける練習を行ったり、船舶と通話して情報提供をおこない危険を回避する訓練を行ったりした。

アンケートにも「管制官がいるおかげで来島海峡だけのきまりを知らなくても安全に通れることが分かった」などの記載があり、管制官の業務について知る機会となった。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）
色々な船の行動やかじをきったかどうかがよく分かって、危ない船に勧告などできるのが良かったです
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
海の航路の安全を守るために必要な大事な仕事だとわかりました。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
海上交通センターの管制官が、どんな仕事をしているのか、イメージできました。

2. 関連事業の内容

■海の学び講座～来島海峡の海上交通を学んで小島要塞跡を巡ろう～

【開催日時】2024年3月10日（日）9:00～17:30

【開催場所】愛媛県総合科学博物館企画展示室、来島海峡海上交通センター、来島海峡、小島

【参加者数】38人

【実施内容・目的】

- 当館企画展示室において展示見学による事前学習を行った後、バスに乗り、来島海峡海上交通センター見学、観潮船による潮流体験、海上からの造船地帯見学及び芸予要塞小島砲台跡の見学等、現地を巡りながら学習を行う。展示見学での事前学習に加えて、現地でも見ながら解説し、実際に潮流を体感したり、歩いて要塞跡の遺構を巡ったりすることで学習効果を高めることが期待できる。



企画展を見学し事前学習



バスで現地に移動



来島海峡海上交通センターで記念撮影



来島海峡海上交通センター見学

企画展示での事前学習のほか、道中のバスの中でクイズによる来島海峡や海峡の海上交通についての学習を行った。

来島海峡海上交通センターでは、センター職員から航行管制業務、「順中逆西」呼ばれる来島海峡航路の独特な航法ルール、センター設置により海難事故の減少する効果があがっていること等について説明があった。その後、管制室やセンターの屋外に設置されている電光表示方式の潮流信号の見学を行った。1年を通じて休み無く来島海峡周辺の海上交通の安全を守る来島海峡海上交通センターの業務について理解を深めることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



来島海峡観潮船に乗船



造船所を海から見学



芸予要塞小島砲台跡を弾薬庫跡の見学



芸予要塞小島砲台跡を砲台跡の見学

観潮船で来島海峡の潮流の速さを体感したほか、波止浜湾造船地帯では船のデッキから建造中の船舶を間近で見学し造船業について学んだ。小島に上陸し、芸予要塞小島砲台跡を見学し、明治から大正時代に掛けて要塞が築かれ防衛の要衝でもあった来島海峡の歴史の一端を学ぶ機会となった。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）
安全を守るためにたくさんの方が活躍していること学ぶことができた。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
見学やガイドの説明から人と海との関わりの歴史を知ることができました。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
海の難所である来島海峡の安全を守る為、管制官の方が働いていることに感謝します。信号の役割についても学ぶことができました。

2. 関連事業の内容

■海の学び講座 近代瀬戸内海ツーリズム

【開催日時】2024年3月17日（日）14:00～15:00

【開催場所】愛媛県総合科学博物館 第1研修室

【参加者数】15人

【実施内容・目的】

- 愛媛県歴史文化博物館の学芸員を講師に迎え、近代瀬戸内海ツーリズムをテーマに瀬戸内海国立公園の父と呼ばれる小西和の功績紹介や昭和初期から発展した瀬戸内海の海上交通と観光について、大阪商船と観光パンフレットや鳥瞰図などから瀬戸内海の姿を紹介し、近代瀬戸内海ツーリズムについて知る機会を提供する。
- 来島海峡や瀬戸内海について、自然や産業分野だけではなく、美術や歴史の視点からもとらえることで、更に海への関心を高めることができる。



会場の研修室



講師の学芸員による講義



瀬戸内海の魅力をまとめた書籍を刊行し、国立公園として保護する必要があると提唱した瀬戸内海国立公園の父と呼ばれる小西和の解説や、絵図、観光パンフレットや鳥瞰図などの歴史資料に描かれた瀬戸内海の風景を通じて、瀬戸内海についての理解を深める機会となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）
歴史資料の絵図の細かい部分の解説を聞いて、昔の人々の瀬戸内海への思いが伝わってくる感じがした。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
瀬戸内海国立公園の父と呼ばれる小西和について講義を聴き、瀬戸内海が本当に好きだったのだと感じた
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
昔の人も、今の人と同じようにきれいな風景を楽しんでいたのだと思った。

2. 関連事業の内容

■海の学び講座 講演会 水先人から見た来島海峡

【開催日時】2024年3月24日（日）13:30～15:00

【開催場所】愛媛県総合科学博物館 第1研修室

【参加者数】40人

【実施内容・目的】

- 水先人の方を講師に迎え、展示テーマの「来島海峡」及び「海運業」等について、実際に業務に携わっている方しか知らないような深掘した内容の講演をしていただき、別視点からの展示の理解を深める。



会場の研修室



水先人の栗阪氏による講義



水先人である栗阪氏を講師に迎え、日本の海運業の重要性、愛媛県は海事クラスターとよばれるほど造船業や船に関する教育機関が集中している全国的にも珍しい県であること、水先人業務やご本人の船長を務めた経験談なども交えた講演のほか、水先人のなりかたなどについての参加者からの質問にも回答していただき、海の仕事について理解を深める機会となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）
海運について知る良い機会になった。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
日本にとって、船はなくてはならないもので、船での輸出入がなければ我々の生活に影響する。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
将来船舶関係の職を目指そうと思っているので貴重な体験になった。

【事業全体のまとめ】

・瀬戸内海国立公園指定 90 周年を期に愛媛県内県立博物館と連携し愛媛県立の博物館 2 施設（歴史文化博物館、美術館）と連携し、歴史、芸術、自然、産業の多様な角度から瀬戸内海を通して海の魅力と理解を深める機会とし、当館では来島海峡の海上交通等に焦点を当てた企画展を開催した。

・付帯事業を実施することで、展示外で瀬戸内海に関する美術や歴史についての学びの機会や海上交通センター管制官体験や水先人の講演により海洋関連の職業への理解や将来のための職業知識を得る機会を提供することができた。

・本展示の観覧者数目標を超えたほか、付帯事業においても直接現場を見る講座や管制官業務体験講座には、定員を超える申し込みがあり、水先人の講演には、多くの参加者が集まったことから海の学びについて一定の需要があることが分かった。参加者からも海に関して体験や知識を深めるよい機会となったことや、海上保安部の仕事を知りたいなど海に関する職業への興味がわいた等の感想があった。今後の事業展開を考える上で参考にしていきたい。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 愛媛県美術館	・展示連携 絵画や歴史資料で描かれた来島海峡について展示パネル製作協力 ・関連イベント 海の学び講座「野間仁根の来島海峡と瀬戸内海」講師派遣
2. 愛媛県歴史文化博物館	・展示連携 絵画や歴史資料で描かれた来島海峡について展示パネル製作協力 ・関連イベント 海の学び講座「近代瀬戸内海ツーリズム」講師派遣
3. 来島海峡海上交通センター	・展示物製作の資料提供、内容の監修 ・関連イベント「海の管制官」体験実施 ・関連イベント「来島海峡の海上交通を学んで小島要塞跡を巡ろう」での施設見学対応
4. 今治海上保安部	・展示物製作の資料提供、内容の監修 ・灯台、潮流信号所関連資料の寄贈
5. 内海水先区水先人会	・関連イベント 講演会「水先人から見た来島海峡航路」講師派遣 ・展示用写真の提供
6. 公益財団法人燈光会	・展示用写真の提供

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 愛媛新聞	知って 来島海峡 航行規則や信号所など紹介 新居浜・県科博で 2024 年 2 月 25 日
2. ジュニアえひめ新聞	来島海峡や潮流信号所 紹介 2024 年 2 月 11 日
3. 南海放送	瀬戸内海国立公園の指定 90 周年を記念 2024 年 2 月 22 日・23 日
4. テレビ愛媛	来島海峡と施設を紹介する企画展 2024 年 2 月 22 日
5. 愛媛CATV	たうん掲示板 企画展「来島海峡と潮流信号所」 2024 年 3 月 7 日
6. 愛媛こまち 2月号	企画展「来島海峡と潮流信号所」 2024 年 1 月 20 日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。